

シラバス 2026年度

学科	1級整備学科	担当者	北島 鎮夫	実務経験	有・無
学科名	自動車工学	教科名	車両運動力学2	時限数	20H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	シャシ電子制御装置		教材、参考資料		
成績評価方法 授業中の状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	一級国家試験に備えシャシ関係の演習問題と解説により理解力を深め、実力を養成する。一級対策の前倒しにより、シャシ電子制御分野の演習も取り入れる。教員は7年3か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	電子制御ATの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	
第2回	電子制御AT,EPSの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	
第3回	EPS,ABSの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	
第4回	ABSの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	
第5回	到達度確認 実習中、教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			到達度確認	
第6回	オートエアコンの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	
第7回	オートエアコンの重要ポイント解説と問題演習			①重要ポイント解説 ②演習問題解説	

第8回	振動・騒音の重要ポイント解説と問題演習	①重要ポイント解説 ②演習問題解説
第9回	振動・騒音の重要ポイント解説と問題演習	①重要ポイント解説 ②演習問題解説
第10回	到達度確認 実習中、教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	到達度確認

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	渡辺 宜男	実務経験	有・無
学科名	自動車整備	教科名	エンジン電子制御3	時限数	10H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	エンジン電子制御装置	教材、参考資料	プリント		
成績評価方法 授業中の状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	昨年の国家試験の分野でも正解率の低かった「高度故障診断技術」分野の演習問題を中心に対策を実施。 エンジン電子制御装置の教科書について理解を深めると共に、高度故障診断を通して、実習のトラブルシューティングの理解へもつなげる。教員は教員は2年5か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	問題演習と解説(直列、並列回路、ショートと断線 故障診断)①			①オームの法則の復習、ショート、断線回路)	
第2回	問題演習と解説(直列、並列回路、ショートと断線 故障診断)②			①オームの法則の復習、ショート、断線回路)	
第3回	問題演習と解説(センサ バキュームセンサ、温度センサ)			①バキュームセンサ ②水温、吸気温センサ	
第4回	問題演習と解説(センサ バキュームセンサ、温度センサ)			①演習問題	
第5回	問題演習と解説(センサ スロットル O2 エアフロ)			①スロットルポジション ②O2センサ	
第6回	問題演習と解説(センサ スロットル O2 エアフロ)			①エアフロメーター ②故障診断	
第7回	問題演習と解説(エンジン故障、フューエルポンプ イグナイタ エンジン不調 CAN)			①フューエルポンプ回路 ②イグナイタ	

第8回	問題演習と解説(エンジン故障、フューエルポンプ イグナイタ エンジン不調 CAN)	①エンジン不調
第9回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	
第10回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	渡辺 宜男	実務経験	有・無
学科名	自動車整備	教科名	新技術2	時限数	10H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I期	II期	通年	履修条件 限定 選択 必修
教科書	1級自動車整備士 自動車新技術	教材、参考資料	演習問題プリント		
成績評価方法 授業中の状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	一級国家試験に備え新技術関係の演習問題と解説により理解力を深め、実力を養成する。一級対策の前倒しにより、新技術分野の演習も取り入れる。教員は2年5か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数、月日	授業概要			重要項目	
第1回	ハイブリッド車① 復習と問題演習			①ハイブリット 問題演習と解説	
第2回	ハイブリッド車② 復習と問題演習			①ハイブリット 問題演習と解説	
第3回	圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式ガソリンエンジン 復習と問題演習			①圧縮天然ガス自動車 ②筒内噴射式ガソリンエンジン 問題演習と解説	
第4回	圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式ガソリンエンジン 復習と問題演習			①圧縮天然ガス自動車 ②筒内噴射式ガソリンエンジン 問題演習と解説	
第5回	コモンレール式高圧燃料噴射システム 無段階変速機(CVT) 演習問題			①コモンレール式高圧燃料噴射システム 問題演習と解説 ②CVT 問題演習と解説	
第6回	コモンレール式高圧燃料噴射システム 無段階変速機(CVT) 演習問題 SRSエアバック解説			①コモンレール式高圧燃料噴射システム 問題演習と解説 ②CVT 問題演習と解説 ③SRSエアバック解説	
第7回	車両安定制御装置(ABS、TCS、ブレーキアシスト、VSCS)、 SRSエアバック問題演習			①車両安定制御装置 問題演習と解説 ②SRSエアバック問題演習と解説	

第8回	車両安定制御装置（ABS、TCS、ブレーキアシスト、VSCS）、SRSエアバック問題演習	①車両安定制御装置 問題演習と解説
第9回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	
第10回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	渡辺 宜男	実務経験	有・無
学科名	自動車整備	教科名	総合実務	時限数	20H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 選択 必修
教科書	エンジン電子制御、法令教材		教材、参考資料	演習問題プリント	
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	前半上期試験までは国家試験のエンジン電子制御分野並びに法令について、後半下期試験までは、エンジントラブルシュートおよび環境安全分野について演習問題を実施、他の科目で行う総合問題の補填を行うように解説を実施し、より理解度を深める。教員は2年5か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数、月日	授業概要			重要項目	
第1回	エンジン電子制御、法令分野の過去問題 ① を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			1人1人に問題解説の質問を行い、個別で理解度の確認をし、都度調べた結果を発表させる 総合演習問題1	
第2回	エンジン電子制御、法令分野の過去問題 ① を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題1	
第3回	エンジン電子制御、法令分野の過去問題 ① を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題1	
第4回	エンジン電子制御、法令分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題2	
第5回	エンジン電子制御、法令分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題2	
第6回	エンジン電子制御(25問)、法令(10問)分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題2	
第7回	エンジン電子制御(25問)、法令(10問)分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。			同上 総合演習問題2	

第8回	エンジン電子制御(25問)、法令(10問)分野の過去問題 ③ を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題2
第9回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	
第10回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	
第11回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(10問)分野の過去問題 ① を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題2と3
第12回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(11問)分野の過去問題 ① を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題3
第13回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(12問)分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題4
第14回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(13問)分野の過去問題 ② を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題4と5
第15回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(14問)分野の過去問題 ③ を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題5
第16回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(15問)分野の過去問題 ③ を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題5
第17回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(16問)分野の過去問題 ④ を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題6
第18回	エンジン電子制御(10問)シャシ電子制御(15問)、環境安全(17問)分野の過去問題 ④ を使用した演習を行い、解説を通して理解させる。	同上 総合演習問題6

第19回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	
第20回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	

シラバス 2026年度

学科	1級整備学科	担当者	北島 鎮夫	実務経験	有・無
学科名	自動車整備	教科名	環境安全2	時限数	10H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	総合診断・環境保全・安全管理		教材、参考資料	プリント	
成績評価方法	授業中の状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)				
授業目標	国家試験対策の環境安全分野について、過去問題を演習後に解説を行い、時間をかけ理解力を深めることで一級対策に取り組むための意識付けを行う。また、得点の低い学生に対するボトムアップのための補講を合わせて実施する。教員は7年3か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	演習問題①, 解説			演習問題及び解説	
第2回	演習問題②, 解説			演習問題及び解説	
第3回	演習問題③, 解説			演習問題及び解説	
第4回	演習問題④, 解説			演習問題及び解説	
第5回	到達度確認 教員による確認および到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺 雅之	実務経験	有・無
学科名	自動車整備	教科名	教育実習	時限数	10H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	整備要領書	教材、参考資料	実車(トランスミッション脱着作業)		
成績評価方法	指導方法、担当学生の作業の進行度合い				
授業目標	授業の計画と実践を通し、技術指導の基本を習得する。教員は3年4か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	授業準備 目標、授業概要の作成			①目標から作業内容の検討 ②作業内容と教材の検討 ③資料の作成 ④グループ、班分けなどの展開方法	
第2回	実習授業実施			①授業スケジュール ②車両、教材、工具の準備 ③理解度確認 ④安全作業	
第3回	実習授業実施			①授業スケジュール ②車両、教材、工具の準備 ③理解度確認 ④安全作業	
第4回	実習授業実施			①授業スケジュール ②車両、教材、工具の準備 ③理解度確認 ④安全作業	
第5回	実習授業実施			①授業スケジュール ②車両、教材、工具の準備 ③理解度確認 ④安全作業	

シラバス 2026年度

学科	1級整備学科	担当者	北島 鎮夫	実務経験	有・無
学科名	自動車法令	教科名	自動車法令	時限数	10H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	3年次	I 期	II 期	通年	履修条件
教科書	法令教材	教材、参考資料	プリント	限定	必修
成績評価方法	試験、レポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)				
授業目標	自動車整備学科で学んだ法令についての復習を行い、法改正された項目及び1級整備士試験で出題される範囲について、より具体的に理解する。教員は7年3か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	道路運送車両法			①登録の種類 ②車検証の有効期限 ③記録簿 ④その他	
第2回	道路運送車両法保安基準その1			①第1条～第31条	
第3回	道路運送車両法保安基準その2			①第32条～第42条	
第4回	道路運送車両法保安基準その3			①第43条～第53条	
第5回	総合演習問題とその解説			①演習問題実施 ②上記解答解説	

シラバス 2026年度

学科	1級整備学科	担当者	山野辺・鈴木雄一郎	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	自動車検査	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 選択 必修
教科書	法令教材	教材、参考資料		実習車、法令教材、整備要領書、保安基準ハンドブック	
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート・出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	法定24か月点検及び点検に付随する作業を行ない、車検整備の必要性、整備の流れを学習する 実際に車検場に車両を持ち込み車検ラインを通すことを体験する。教員は3年4カ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数、月日	授業概要			重要項目	
第1回	受け入れ点検、保安基準			①車両受け入れ時の確認事項 ②点検作業の流れ ③保安基準の確認	
第2回	法定24か月点検 車検ライン			①点検作業の流れ ②消耗品の交換作業 ③車検ラインの使用法 ④保安基準適合、不適合の判断	
第3回	法定24か月点検 車検ライン			①点検作業の流れ ②消耗品の交換作業 ③車検ラインの使用法 ④保安基準適合、不適合の判断	
第4回	法定24か月点検 車検ライン			①車検場でのラインの通し方 ②書類の記入方法及び各種手続き	
第5回	法定24か月点検 車検ライン			①車検場でのラインの通し方 ②書類の記入方法及び各種手続き	
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			車検ラインにおける検査 継続検査に必要な書類の作成	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	鈴木 雄一郎	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	整備見積実習	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	総合診断、標準作業時間点数表		教材、参考資料		
成績評価方法	授業態度、見積書提出、課題見積作成				
授業目標	標準作業時間点数表から工数を調べ、作業項目に対しての工賃算出及び部品代を 検索し、車検、定期点検についての諸費用を含めた整備見積金額を算出する。 また、部品検索ソフトを活用し、交換部品の価格を調べる方法を身に着ける。教員は6年の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	見積書作成用ソフトの使い方。 ディーラーと民間工場の違い。			①操作方法について ②保証書について ③見積書の必要性とあり方 ④車両明細の打ち込み	
第2回	必要部品の絞り込み、見積書作成			①部品カタログの調べ方 ②見積書作成	
第3回	見積書作成			定期点検と一般整備での料金の違い	
第4回	見積書作成 整備精算書の作成			定期点検整備の見積書 一般整備車両の見積書作成 車検諸費用の算出 整備精算書の作成	
第5回	見積書作成 整備精算書の作成			見積書作成 整備精算書の作成	
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			12カ月点検作業見積書作成	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺 雅之	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	エンジントラブルシュート2	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	エンジン電子制御装置		教材、参考資料 ベンチエンジン、整備書		
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	エンジン電子制御のトラブルシュートを行ない各センサ、アクチュエータに不具合が発生した際の故障現象確認、エンジンの状態について把握し、各種テストを活用した、確実なトラブルシュート手順を習得する。教員は3年4カ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	エンジンECU各端子電圧を正常時、断線時及び短絡時測定。 上記断線、短絡時のエンジンの状態を確認する。			①正常時電圧 ②断線時現象及び電圧 ③短絡時現象及び電圧	
第2回	主にダイアグコード有りの不具合 トラブルシューティング①			①トラブルシューティング手順 ②故障診断機、PCの使用方法 ③エアフロ・センサ ④バキューム・センサ ⑤水温センサ	
第3回	主にダイアグコード有りの不具合 トラブルシューティング②			①水温センサ ②クランク角センサ	
第4回	主にダイアグコード無しの不具合 トラブルシューティング③			①エアフローメータ異常 ②プラグ ③カム各センサ	
第5回	主にダイアグコード無しの不具合 トラブルシューティング④				
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	鈴木雄一郎	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	ATトラブルシュート2	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	Ⅰ期 Ⅱ期	通年	履修条件	限定 必修
教科書	シャシ電子制御、整備要領書	教材、参考資料	B15サニー		
成績評価方法	授業態度、実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価				
授業目標	日産4速オートマティクトランスミッションの内部構造の確認と、各ギヤ位置での動力伝達経路、及び、各ソレノイド、インヒビタ等の電氣的故障のトラブルシュートを行う。教員は6年実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	実車による不具合現象の確認			1～4速、後退時の締結要素 ソレノイドの役割とフェイルセーフ	
第2回	テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート			テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート	
第3回	テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート			テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート	
第4回	テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート			テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート	
第5回	テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート			テスタ及びオシロスコープによるデータ確認、トラブルシュート	
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			トラブルシュート	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	鈴木雄一郎	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	電装品トラブルシュート2	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	配線図	教材、参考資料	インテグラ		
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	3年次に実施した車体電装の知識を確認し、車体電装品に発生するトラブルを整備書、配線図を用いて不具合箇所を断定できる能力を身に付ける。また、多重通信を用いた電気装置の構造と不具合現象を確認し、診断機を活用したトラブルシュートの方法を学ぶ。教員は6年の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	各回路の理解、正常値確認 P/W、ドアミラー、ワイパー、ライト回り系			不具合時の現象予想と、電圧予想	
第2回	パワーウインド系のトラブルシュート			確実な現象確認 絞り込み PCでの回路図確認 確実な測定作業	
第3回	ドアミラー系のトラブルシュート			確実な現象確認 絞り込み PCでの回路図確認 確実な測定作業	
第4回	ワイパー系のトラブルシュート			確実な現象確認 絞り込み PCでの回路図確認 確実な測定作業	
第5回	ライト回り系のトラブルシュート			確実な現象確認 絞り込み PCでの回路図確認 確実な測定作業	
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			ストップランプアース線断線 確実な現象確認 絞り込み PCでの回路図確認 確実な測定作業	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺 雅之	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	点検整備実務	時限数	48H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I期	II期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	法令教材	教材、参考資料	プリント、各車整備解説書		
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	法令で定められた定期点検整備の作業内容及び受け入れの流れ、完成検査について再確認し、作業については内容だけでなく作業時間、作業効率についての意識を高める。また、検査場にて検査の実施及び手続き等についても体得する。教員は3年4カ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	定期点検及び入庫受け入れの流れについて導入、自家用乗用12か月定期点検整備作業			①定期点検の流れ ②作業工数の確認	
第2回	自家用乗用12か月定期点検整備作業			①実作業と作業工数との比較をし作業効率を意識させる	
第3回	定期点検整備作業、完成検査			①実作業と作業工数との比較をし作業効率を意識させる	
第4回	定期点検及び入庫受け入れの流れについて導入、自家用乗用12か月定期点検整備作業(車両を入れ替え)			①定期点検の流れ ②作業工数の確認	
第5回	定期点検整備作業(消耗品の交換伴う作業)			①消耗品交換伴う作業手順の確認 ②良否判定の基準	
第6回	定期点検整備作業			①LSDのO/H、ブレーキキャリパーのO/H ②エアコンガスの充填作業手順	
第7回	自家用乗用2年定期点検整備作業、完成検査、書類作成			①指定記録簿と認証記録簿の違いの確認と実際に記入	

第8回	事業用自動車定期点検整備作業	①事業用3か月点検
第9回	事業用自動車定期点検整備作業	①事業用6か月点検
第10回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う	①12か月点検
第11回	自家用乗用定期点検整備作業、完成検査、書類作成	①完成検査の実施 ②書類の作成
第12回	陸運局持ち込み検査	①陸事持ち込み

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺・鈴木	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	NVH	時限数	20H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I期	II期	通年	履修条件
教科書	シャシ電子制御	教材、参考資料	プリント	限定	必修
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	実車及び振動計, オシロスコープを使用し, 実際の原因となる設定し騒音・振動を確認しトラブルシュート及び修正方法を体得する。教員は3年4カ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	騒音振動トラブルシュート〔基礎知識確認・実車走行確認〕			①NVHの基礎知識 ②国家試験の計算問題復習	
第2回	騒音振動トラブルシュート〔実車走行確認〕			②ビート音などを実際に再現して確認	
第3回	騒音振動トラブルシュート〔データ測定・究明方法・実車走行確認〕			①ホイールのアンバランス実車で走行確認 バランスウェイトをたくさんつけると振動も増える？	
第4回	騒音振動トラブルシュート〔データ測定・実車走行確認・〕			①異音の確認	
第5回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				

[illegible]

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺 雅之	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	高度故障診断エンジン	時限数	16H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	エンジン電子制御装置		教材、参考資料	ベンチエンジン、整備書	
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	エンジントラブルシュート2 及び電装品トラブルシュートで学んだ故障探求方法を再度、理解すると共にテスタ・オシロスコープ及び診断機を用いてさらにレベルアップした内容及び教科書内の不具合についてのトラブルシュート方法を体得する。教員は3年4カ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	正常時電圧確認、フェイルセーフ確認、スロットル開度センサ、水温センサ、過去問題に照らし合わせた診断			①正常時電圧の確認 ②各センサーの断線短絡時の電圧確認	
第2回	正常時電圧確認、フェイルセーフ確認、スロットル開度センサ、水温センサ、過去問題に照らし合わせた診断			①正常時電圧の確認 ②各センサーの断線短絡時の電圧確認	
第3回	トラブルシューティング			①エンジン始動不能 ②エンジン不調(1気筒点火せず)	
第4回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	鈴木雄一郎	実務経験	有・無		
学科名	実習	教科名	高度故障診断シャシ	時限数	16H(1Hは学科70分、実習95分)		
開講時期	4年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件	限定	必修
教科書	シャシ電子制御装置		教材、参考資料		E12ノート、整備書		
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)							
授業目標 シャシ電子制御の教科書に記載されている, ABS、オートエアコンに加え、衝突被害軽減システムの構造と作動についても診断機を活用して理解する。教員は6年6ヶ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。							
回数	授業概要				重要項目		
第1回	オートエアコンの構成部品の確認、電子制御部品単体の点検				センサー、アクチュエータの作動		
第2回	ABS車輪速センサ信号の確認。トラブルシュート				コネクタの接続状態の再確認 診断器データからの故障原因推測		
第3回	突被害軽減システム(レーダーブレーキサポート)の構造確認				エーミングの方法		
第4回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う						

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺 雅之	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	高度故障診断 電装品	時限数	16H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	エンジン電子制御 整備書、配線図		教材、参考資料 サニー		
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	エンジントラブルシュート2 及び電装品トラブルシュートで学んだ故障探求方法を再度、理解すると共にテスタ・オシロスコープ及び診断機を用いてさらにレベルアップした内容及び教科書内の不具合と実際の現場で起こりうるトラブルについてのトラブルシュート方法を体得する。教員は3年4か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	電装品故障設定			①自ら故障設定を作り回路について深く理解する	
第2回	電装品故障診断			①パワーウィンドウ ②ワイパ ③電動ミラー ④灯火類	
第3回	電装品故障診断			①パワーウィンドウ ②ワイパ ③電動ミラー ④灯火類	
第4回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				
第5回					

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	山野辺・鈴木	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	トラブルシュート総合2	時限数	24H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	Ⅱ期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	1級教科書		教材、参考資料	ベンチ・エンジン、デミオ/サニー	
成績評価方法 実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価及びレポート、出席(実習は100%、学科は90%以上)					
授業目標	ベンチ・エンジン又は実車故障診断。トラブルシュートを総合的に学ぶ。教員は3年4か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	ベンチ・エンジン構成部品とアクチュエータの作動確認			①センサの回路構成、信号電圧特性確認 ②アクチュエータの回路構成、駆動電圧特性確認	
第2回	ベンチ・エンジン故障診断			各種故障診断	
第3回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				
第4回	実車で構成部品とアクチュエータの作動確認			①センサの回路構成、信号電圧特性確認 ②アクチュエータの回路構成、駆動電圧特性確認	
第5回	実車故障診断			故障診断	
第6回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う				

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	鈴木 雄一郎	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	フロント業務	時限数	32H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4 年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 必修
教科書	総合診断・環境保全・安全管理		教材、参考資料	口述試験過去問題	
成績評価方法	授業態度、実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価				
授業目標	顧客対応の基本を学び、お客様対応の基本的要素を修得する。また、口述試験に向けて問診、整備内容説明の基本的な手順、対応時の流れ、1級整備士として必要な保守管理の必要性を理解する。 教員は6年6ヶ月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	問診、整備受付の方法、			① 問診のやり方 ② 整備説明のやり方 ③ 口述の試験のやり方	
第2回	口述 問診についてのロールプレイング			5W1Hを活用した問診 問診フローを各自作成・協議し、的確で無駄のない共通の問診フローの作成	
第3回	口述 整備内容説明についてのロールプレイング			説明の手順 数値の具体的な説明 整備説明フローを各自作成・協議し、的確で無駄のない共通のフローの作成	
第4回	口述 ロールプレイング(過去問)			問題1と2の時間配分について 問診を行うことで、不具合にたどり着けるような内容を考える。	
第5回	口述 ロールプレイング(過去問)			走行距離やパッド、タイヤなどの残量が計算できるように設定する。	
第6回	口述 ロールプレイング(過去問)			共通フローの反復による定着とロープレを見学することによるフローの修正	
第7回	口述 ロールプレイング(過去問)			共通フローの反復による定着とロープレを見学することによるフローの修正	
第8回	総合実習(到達度確認) 実習中、教員による工程確認および技能到達度のチェックを行い、必要に応じて助言・再実施を行う			口述 ロールプレイング	

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	北村/榎本/鈴木/山野辺	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	総合診断	時限数	32H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	4年次	I 期	II 期	通年	履修条件 限定 選択 必修
教科書			教材、参考資料	実習車両	ベンチエンジン
成績評価方法	授業態度、実習中の作業状況および最終回の到達度確認による総合評価				
授業目標	2年間の集大成として、実車を使った定期点検、故障診断などを入庫から納車までを想定した内容で一連の流れを復習し、実践的な知識を身につけさせる。教員は12年4か月の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数、月日	授業概要			重要項目	
第1回	電氣的故障診断(各種センサ、アクチュエータ)			センサ信号の確認 アクチュエータ駆動信号確認	
第2回	故障診断			故障探求	
第3回	エンジン故障探求(実習試験)			総合実習(到達度確認)	
第4回	1年定期点検整備一式			記録簿の記入	
第5回	エンジントラブルシュート			記録簿の記入	
第6回	エンジントラブルシュート			総合実習(到達度確認)	
第7回	シャシ系トラブルシュート			総合実習(到達度確認)	

第8回	シャシ系トラブルシュート	総合実習(到達度確認)
-----	--------------	-------------

シラバス 2026年度

学科	自動車整備系学科	担当者	北村、中川、鈴木、山野辺	実務経験	有・無
学科名	実習	教科名	卒業研究	時限数	28H(1Hは学科70分、実習95分)
開講時期	3, 4 年次	I 期	II 期	履修条件	限定 必修
教科書	整備要領書	教材、参考資料	実車		
成績評価方法	作業の進行度合い、レポート、研究発表				
授業目標	2年間を通して、実習車のレストアに一から取り組み、マネジメントの運営方法や車両作成技術の向上、塗装技術向上のための研究、実験等を行い、制作内容についてのレポート作成を行い、その研究内容からプレゼン資料を作成し研究発表をする。教員は6年の実務経験を有し、当該科目を自動車整備士実務者の観点から実務に即した授業を展開している。				
回数	授業概要			重要項目	
第1回	事前準備 目標、車両作成計画の作成			①目標から作業内容の検討 ②作業内容と材料の検討 ③担当班分け等の作業方法検討	
第2回	車両の作成			①作業内容の検討 ②作業内容と材料の検討 ③作業進捗状況の確認 ④安全作業	
第3回	車両の作成			①作業内容の検討 ②作業内容と材料の検討 ③作業進捗状況の確認 ④安全作業	
第4回	車両の作成			①作業内容の検討 ②作業内容と材料の検討 ③作業進捗状況の確認 ④安全作業	
第5回	車両の作成			①作業内容の検討 ②作業内容と材料の検討 ③作業進捗状況の確認 ④安全作業	
第6回	研究レポート作成、研究発表プレゼン資料作成			①レポート作成 ②プレゼン資料作成 ③プレゼンの練習	
第7回	研究発表会			①研究発表会実施 ②発表会振り返り	